

# 北朝・隋唐と高句麗壁画

## 四神図像と畏獣図像を中心として

Mural Paintings of Northern Dynasty, Sui, and Tang China and  
Koguryo, Korea

### 東 潮

はじめに

- ① 高句麗壁画の四神・畏獣図像
- ② 高句麗壁画の変容
- ③ 三燕・北朝の壁画墳
- ④ 三燕・北朝墓の構造と壁画
- ⑤ 北朝と高句麗壁画
- ⑥ 隋唐壁画の四神図像
- ⑦ 隋唐四神図像の変遷

#### 【論文要旨】

古代東アジア世界において、高句麗・三燕・北朝・隋唐壁画の比較研究を試みる。とくに三燕・北朝・隋唐壁画墳の従来の墓室構造および壁画構成の変遷過程を追究した。

高句麗の三室塚・通溝四神塚・五蓋墳4・5号墳、北朝の茹茹公主墓・婁叡墓、隋の李和墓、唐の蘇定方墓など、四神図像・畏獣図像の表現空間、図像の変化に着目して分析する。高句麗壁画に表現された神怪図像を、畏獣像（鬼神・鬼面）・力士像・門衛像に分類し、それらの図像の変遷過程に北朝壁画との影響関係、その背景に国際的な交流関係がみられる。

高句麗の王陵は、6世紀中葉の陽原王いらい、風水の地理的条件に叶う地勢に、四神壁画をとりいれ、造営されたが、その四神思想は高句麗王権の統治思想となった。

4～8世紀の高句麗・北朝・隋・唐壁画に表現された異人・胡人像は国際的な交流関係のものであるとともに、西域・西方に対する辟邪という観念を象徴するのであるが、それは他界観の表現である。また高句麗壁画に記された図像の榜題のなかで、通溝四神塚の畏獣も辟邪思想を表象したものである。

北朝壁画の四神図像、乗駕龍虎神仙像、牽引青龍・白虎図像、墓主図像、屏風画の変遷過程を解明することによって、東魏の茹茹公主墓壁画は、四神図や宮廷儀礼図など、初唐壁画の原形をなすことなどを明らかにした。

隋唐壁画の四神図像は、7世紀中葉ごろに墓室から墓道に表現されることや、隋唐と高句麗の四神壁画を比較したうえで、キトラ・高松塚古墳壁画の四神図像の系譜関係について言及した。